

株式会社岡村¹

株式会社岡村（以下岡村）は、群馬県高崎市で酒類卸売業を行っている社員 100 名ほどの企業である。近年酒類業界が激変してきた中でも、岡村は堅実な経営を行い、群馬県の地方卸としてメーカーや小売業からも支持されている。

10 しかしながら、環境変化に対応はしているが、今後も生き残るためには岡村をどのように経営すべきであるかについて、代表取締役社長の岡村武彦氏が憂慮する日々が続いている。

岡村の沿革と経営方針

20 岡村は、社長の岡村武彦氏の祖父・桂次郎^{けいじろう}氏により、岡村酒店（酒類小売店）として大正 8 年（1919 年）に創業された。第二次大戦を経て、桂次郎氏は 59 歳となった昭和 26 年（1951 年）に株式会社岡村商店を設立し、酒類卸販売を開始した。桂次郎氏は美味しいお酒で有名な新潟県の出身ということもあり、新潟の酒蔵とのつながりが強かった。現在でもそういった酒蔵との関係は続いている。また、桂次郎氏は仕事では厳しかったが、仕事を離れると温厚で面倒見が良く、社員や得意先など多くの人から慕われる存在であった。

岡村社長は、2 代目社長の博光^{ひろみつ}氏の長男として昭和 32 年に生まれた。大学を卒業後、宝酒造株式会社に入社して主に営業を 3 年間経験した。その後、25 歳で岡村に入社し、社員として営業などの現場や管理部門で経理などを担当した。博光氏が社長の在職中に亡くなってしまい、岡村社長は平成 2 年から専務に、平成 16 年より 4 代目として現職に就任した。

30 初代から一貫した経営理念は、「商売の基本は感謝の気持ち 売らせていただく 買っていただく」であり、企業理念は「企業の安定は お取引先の信頼、従業員の安心」である。その理念の通り、顧客の要望に応える努力を惜しまず、従業員にはどのような状況になっても「リストラはしない」と宣言して、社員を大事にして人材育成を重視する姿勢を貫いてきた。

¹ 本ケースは株式会社岡村の協力を得て、独立行政法人中小企業基盤整備機構企画部調査課（旧経営支援情報センター）の笠原一絵リサーチャーが、関東学園大学経済学部准教授・駒田純久と MS コンサルティング（中小企業診断士）・齋藤政美のアドバイスを受けて執筆し、同課鈴木直志統括ディレクター、矢口雅哉ディレクター、堀田恭子の意見を参考に作成したものである。また、クラス討議の資料として作成されたものであり、特定の経営管理に関する適切又は不適切な例示することを意図したものではない。本ケースの著作権は、独立行政法人中小企業基盤整備機構に帰属する。（2011 年 3 月）